

大空に翔ける



2019年度日之影中学校だより



8月号

校長

伊東泰彦

オープンスクールを実施しました！

校長と代表生徒によるオープニングトーク



8月1日(木)に、町内の全小学校6年生を対象にしたオープンスクールを実施しました。

まず最初に、校長と代表生徒

(3年佐藤桃華さん)によるオープニングトークを行い、佐藤さんが自己紹介(英語)やアドバイスをしました。次に3年生が、プレゼンテーションで中学校の教育内容や行事を紹介していきました。その後、トークフォークダンスという対話型の交流活動を行い、1年生が円の内側に座り、外側の小学生に向かってテーマごとに中学校の説明をしました。小学生からも質問や感想発表などがなされ、とても楽しい交流活動ができたと思っています。6年の皆さんの入学をお待ちしています！



中学生と小学生等によるトークフォークダンス

九州大会に出場します！



7月20日に行われた県中体連・陸上競技、共通男子800mで、3年生の田崎和憲くんが2位に入賞し、8月8日に熊本県で行われる九州大会に出場することになりました。本町唯一の九州大会出場者です。頑張ってください！



賞状

田崎和憲くん

ひのかげの郷

先日、何とも興味深いタイトルに惹かれ、五木寛之の小説『日ノ影村の一族』(一九七八年文春文庫)を取り寄せて読んでみた。我が国の歴史や神話を斬新な角度から見つめさせる、幻想とロマンに富む怪奇譚の秀作である▼ただ、小説の舞台「日ノ影村」は、私たちが嬉しくなるイメージでは描かれていない。五木氏はあと「いと注釈しつつも、氏自身が実在の町名に強烈なインパクトを受けて小説の舞台・日ノ影村のイメージを創り出したと述べていることを勘案すれば、氏もやはり本町の名前の由来はご存じなかつたのではなからうか▼6月号でも触れたが、古語でいう「影」とは「光」のことであり、「日の影」とは「陽光の明るい場所」という意味である。ちなみに町制が施行された昭和26年時点の町名は「日の影町」であり、その後、それまで岩戸村(現高千穂町)に属していた見立地区を昭和33年に本町に編入した際に、現在の町名「日之影町」へと改称されている▼さて、日之影の未来を考える対話型ワークショップ「ヒノカフェ」を19日に中学校で開催する。今回から中3生が主役として参加し、小中9年間の学びを踏まえながら、当事者意識を持って日之影の未来づくりに参画する機会に再構築した。ぜひ、陽光のように明るい日之影の未来を考えてもらいたい。(校長 伊東泰彦)



小説に登場するてんてる坊主

中体連県大会の結果



女子バレー 1回戦



水泳女子100m自由形



共通男子800m



ソフトテニス女子予選リーグ

■バレー女子

1回戦で三股中に惜敗

■水泳・甲斐綺色さん

50m自由形：5位、100m自由形：7位

■剣道・田中万葉さん

1回選で惜敗

■ソフトテニス女子

団体戦…ベスト8

1回戦高原中、2回戦妻ヶ丘中、準々決勝で優勝した吾田中に惜敗

個人戦

佐保・甲斐ペア予選突破、決勝トーナメント一回戦で惜敗。

姫野・馬崎ペア予選リーグで惜敗。

■陸上 800m田崎和憲2位・甲

心土5位、400m田崎和憲8位

予選惜敗) 馬崎次夢・甲斐心土1500、佐藤杏丞100・200、甲斐鼓太郎200、丹波愛結100、甲斐百華100・80H、甲斐千尋200
走幅跳、福川陽菜100・200、俵あき100、共通男子400mリレー、共通女子400mリレー

ありがとう、レイモンド先生！

日之影中のALTとして5年間教えてくださったレイモンド・エスピノーラ先生が、7月いっぱいアメリカに帰国することになりました。優しく朗らかでいつも生徒たちに寄り添ってくれていたレイ先生の帰国は、生徒だけでなく教職員にとっても寂しいできごとでしたが、ぜひアメリカの大学院でも頑張ってもらいたいと思います。これまでありがとうございました！



【レイモンド先生のお別れの挨拶】※とても流暢な日本語で挨拶をしてくださいました！

私が日本に行くことになった時「どうして日本にいくんですか？」とよく聞かれました。大抵の場合私は「日本の文化について学びたいから」と答えていましたが、今振り返ると、その目標は達成できたと思います。

日之影に来てからほとんど毎日のように、生徒の皆さんや先生方のおかげで、日本語や日本の習慣を学ぶことができました。そして、優しい方々にたくさん出会い、友達もたくさんできました。いよいよアメリカに帰る日が近づいてきたのですが、懐かしい思い出が多すぎて数え切れません。例えば、生徒の皆さんの面白い話や先生たちと一緒に働いたこと、チキン南蛮などが思い出されます。また、体育大会で生徒を応援したり、文化祭でチェロを演奏したり、毎日英語を教えたりすることができて私は嬉しかったです。こんなにたくさんの思い出がある日之影中学校のことは決して忘れません。アメリカに帰りますが、みなさんいつかまた会いましょう。

最後になりますが、皆さんには英語の勉強をしっかりとやって、国際交流をがんばる人、そして夢を達成できる人になってほしいと思います。私の場合は「日本に来る」ということが夢でしたが、日之影のおかげで、その夢以上のたくさんの思い出をいただきました。日之影中学校での5年間をどうもありがとうございました。Thank you!

Good bye Raymond!!

Thank you so much for the wonderful time, we had such a good time. We will never forget you. Take care of yourself until the day you meet again!!

甲斐心土くんが青少年の主張・県大会に出場!



3年甲斐心土くん

本校3年生の甲斐心土くんが、8月7日(水)に宮崎市で開催される「青少年の主張宮崎県大会」に出場することになりました。この大会は、全県下から応募された作文を審査員が選考し、最終選考に残ったわずか10名だけが出場できる大会です。心土くんの「未来の農業」は、彼がこの日之影で実際に見て触れて感じた体験が込められたすばらしい内容です。ぜひ大会でも頑張ってください!

未来の農業

皆さんは農業に対してどのようなイメージを持っていますか。僕は、世界で一番大切な仕事だと考えています。どんなに都市が発展しても、技術が進歩していつても、人間は食べないと生きていけないので、食糧を作る農業は重要な役割を果たしています。

しかし今、農業には様々な問題があります。やはり一番は少子高齢化による後継者不足ではないでしょうか。僕が住んでいる町でも、高齢化で農業が続けられなくなった耕作放棄地があちこちで見られるようになってきました。田畑の数が減るということは、それだけ日本の食糧自給率が下がるということです。ただでさえ安い外国産の農産物の影響で日本の農家の方々が困っているのに、このままでは日本産の農産物の消費はもつと落ち込んでいくでしょう。他にも問題はありますが、僕はこの少子高齢化の問題に一番危機感を持っています。

そこで、僕なりに対策を考えてみました。まずは生産者の負担を減らすことです。その方法として、農業の機械化や機械の精度向上が最優先だと考えます。今まで手作業で

行っていたことを機械に任せ、その分今までの以上の収入が見込めたり時間に余裕ができてきたりします。楽に効率よく仕事ができるようになれば、農業を始める人や続けられる人が増えると思います。現に最近では、スマート農業といってドローンやスマートフォン、AIを利用して生産を行っていると見ました。

これらの方法なら、大変便利そうだし活用できれば効率もぐんと上がるでしょう。しかし、そのためにはたくさんのお金がかかってしまいます。また、操作について学ぶ場も必要です。そして、平野部に比べて傾斜や狭い土地の多い山間部では機械化が進んでいないなど、土地による差も生じています。僕の町も山間部にあり、棚田や変則的な形の田畑が多く、機械を使いたくても使えないという農家も多いです。だから、今すぐにはいかになくとも、補助の制度を見直したり、機械を安く借りられる仕組みを考えたり、機会の多様化や改良がもっと必要です。少しづつでもこういったことを進められたら

三年 甲斐心土

らと思います。しかし、いくら機械化が進んでも、農業という仕事に就く人がいなければ意味がありません。若い人が農業を選ばない理由は、農業に対するイメージが大きく関わっていると思います。「儲からない」「きつい」「難しい」といったマイナスのイメージのせいだと思っています。

でも、最近は農業技術の向上で、少ない力で楽に作業することができます。また、インターネットを利用して情報を集めたり販売したりできる環境もあります。そして農産物のブランド化や、生産から加工・販売までを行う六次産業化で収益アップをしたり、工場での栽培、品種改良、有機栽培など、これまでになかった考え方や方法も生まれています。そこにはたくさんの方のチャンスがあります。これまでの概念に縛られず、そのチャンスをどう生かしチャレンジするかが、これからの僕たちの農業には必要だと感じます。

僕の家はお茶を栽培・販売しています。僕が継げば三代目になります。僕は消費者とのつながりを大切に、新しいことにどんどん挑戦するような農業がしたいと考えています。いろいろな問題を抱えている日本の農業ですが、一人一人が食べ物を作るということ、意識を向け、考えて行動することで、日本の農業は輝くものになるでしょう。僕も自分にできることを頑張ってみつけていきたいです。



日之影の茶畑



日之影の棚田



日之影の特産品・栗

中学生8名をシンガポールに派遣！



結団式での集合写真



出発式で、保護者・見送り生徒たちと一緒に

本年度から始まる日之影町の未来づくり推進事業「中学生海外交流派遣事業～未来への翼～」により、本校の中学生8名と引率者2名（日高竜太先生：社会科、川添卓哉指導主事）が、8月1日～6日の日程でシンガポールに派遣されました。【※感想などは次号に掲載します】

今後の社会で活躍するために必要な国際感覚や広い視野を身に付け、グローバルに思考しながらも身近な地域社会で行動を起こせるような人材に育てて欲しいと願います。たくさんの応募者の中から、今回は次の3年生8名が派遣されました。たくさんの学びを持ち帰ってください！

【第1回派遣者】甲斐心土(かいしんと)、甲斐誠章(かいともあき)、田崎和憲(たさきかずのり)、丹波結斗(たんばゆいと)
甲斐梨沙(かいりさ)、佐保京(さほみやこ)、田中万葉(たなかかずは)、村上千香子(むらかみちかこ)

日之影町教職員研修が行われました！

8月2日（金）に、町内の小中学校すべての先生方が参加する研修が行われました。午前中は日之影中学校の多目的ホールを会場に、日之影駐在所の広瀬哲郎さんによるコンプライアンス研修と、県教育庁義務教育課の川崎正彦副主幹による講義「読解力の育成について」が行われ、先生方が大変熱心に堅守に取り組まれました。

8月1日付けの新聞では全国学力調査の結果分析が掲載されていましたが、今後の学力を支える上で大変重要なキーワードの1つがこの「読解力」です。本校でも、この読解力育成を目指し、様々な取組を進めているところですが、新傾向の問題を解いたり分析したりすることで、新しい視点やヒントを得ることができました。今後の教育活動に反映していきたいと思えます。



研修会で協議をする先生方

体育大会に向けて

今年の体育大会は9月8日（日）です。7月18日に結団式を行い、大会スローガンも公表されました。この夏休み期間中も、生徒たちは応援の練習や団装飾作成などに取り組んでいます。

令和元年度 団長・副団長

赤団 団長：山本 奏
副団長：佐藤 桃華
白団 団長：甲斐 悠斗
副団長：山本 莉緒



大会スローガンの公表

【8・9月の主な行事】

8月

19日…登校日
ヒノカフェ2019(中学校が会場です)
20日…文化祭個人発表オーディション
26日…始業式

9月

1日…ボランティアの日
2・3日…第2回美力テスト(3年)・課題テスト(1年)
4日…体育大会予行練習
6・7日…PTA奉仕作業(第2回)
8日…体育大会